

泌尿器科

診療科の概要

先天性腎尿路・生殖器系疾患で、外科的治療が必要な子どもが対象です。新生児期・乳児期の泌尿器科疾患は、技術的な問題や麻酔・術後管理の問題で一般泌尿器科では扱えませんが、当科では小さな子どもに対しても適切な検査、手術が行えます。

主な対象疾患

◎腎尿路疾患

膀胱尿管逆流、先天性水腎症、巨大尿管、先天性後部尿道弁などの先天性疾患

◎外性器異常

男児の精巣、陰嚢、陰茎の先天異常と女児の外陰部異常が対象となります。手術的治療が必要か、最適の手術時期はいつ頃か、などはその子どもの発育と密接に関係があり、なるべく早期に受診をお願いします。



主な検査と治療

◎検査

・腎尿路画像診断／ウロダイナミック検査

超音波断層検査、排尿時膀胱尿道造影、核医学検査が主たる検査です。また、CT、MRI、排泄性尿路造影などを必要に応じて行います。

下部尿路機能を詳しく調べるために、X線透視下のビデオウロダイナミック検査を施行します。腎および上部尿路を調べる目的では、核医学を利用した利尿レノグラフィー、腎シンチグラフィーを行います。

・内視鏡検査

下部尿路の器質的病変を調べるための尿道膀胱鏡検査と腹腔内を調べる腹腔鏡検査を行います。いずれも入院の上、全身麻酔を必要とします。



◎治療

・尿路・外性器形成術が主たる治療となります。手術は、困難で長時間を要する場合もあり、適切な入院期間が必要です。

・日帰り手術

停留精巣などの短時間で手術が終了する疾患が対象となります。

専門外来

トランジション外来：第4金曜日午後



診療実績(2024年)

2024年の年間初診患者数は717例で、近畿圏のみならず全国より紹介いただいております。手術件数は、年間382件で、なかでも膀胱尿管逆流に対する逆流防止術は28件（内視鏡手術を含む）、停留精巣に対する手術は104件、尿道下裂修復術は49件と国内では最も症例数が多い施設の一つです。



主任部長
松本 富美



副部長
松井 太



診療主任
藤本 幸太